

令和 7 年度 陽南中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

本校では、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領等に示された教育の目標や内容及び本県の教育行政の方針、さらに宇都宮市民憲章、宇都宮市学校教育スタンダード、陽南地区の教育的・文化的環境、本校生徒の実態等を考慮し、健康で明るく気力に満ちた 21 世紀を担う健全な生徒の育成のために、次の目標を設定する。

気力・体力・活力に満ちた生徒 心情豊かで責任感の強い生徒 自ら学び、創造性に富む生徒	○生徒指標：「よく学び、よく鍛えよ」
--	--------------------

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人権尊重の精神を基盤として、確かな学力、豊かな人間性、健康や体力など、変化の激しい社会を生きるために必要となる「生きる力」を確実に身に付けさせるとともに、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高め、多様な人々と協働しながら自分と社会の未来を拓き、持続可能な社会の創り手となることができる生徒を育成する。

また、人間力の形成に向けて、全教育活動を通じて、「ほめて伸ばす指導（自己存在感・自己肯定感・自己有用感など自尊感情を育む指導）」の充実を図り、自信と誇りをもって生き生きと学校生活を送る生徒を育成していく。

さらに、義務教育 9 年間を通して児童生徒の能力・態度等を育成していく観点から、小学校との連携を十分に図った小中一貫教育を推進するとともに、本校の伝統でもある地域に根ざした特色ある教育活動を一層推進していく。

こうした教育活動がより効果的に実践されるよう、学校のデジタル化を進めるとともに、学校における働き方改革を推進し、業務の効率化や労働時間の適正化を図る。

〔目指す教師像〕

- ・ 組織人としての責任感や協調性をもち、互いに高めあう教師
- ・ 優れた専門性と指導力をもつため、学び続ける教師
- ・ 人間性豊かで信頼される教師
- ・ 探求心をもち、新たな課題に対応できる教師

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導要領や第 2 次宇都宮市学校教育推進計画後期計画の趣旨をふまえるとともに、生徒の実態や学校・地域の特性を生かした特色ある教育課程の編成・実施に努める。
- (2) 地域や世界とのつながりの中で生活していることを自覚し、身につけた力を地域や社会のために活用できる特色ある学校づくりと教育課程の編成に努める。
- (3) 生徒の実態をふまえた個に応じた指導など、指導方法や指導体制の工夫・改善を図るとともに、家庭学習を充実させ、生徒一人一人の確かな学力の育成に努める。
- (4) 共感的な生徒理解を基盤として、発達の段階に応じた生徒指導の充実を図り、望ましい人間関係や豊かな人間性・社会性の育成に努める。
- (5) 道徳科の充実を図り、生徒一人一人の道徳的実践力を高めるとともに、読書活動や体験活動を一層推進し、生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める。
- (6) 健康管理や体力づくり、食に関する指導の充実を図るなど、生徒が将来にわたって健康的な生活を送るための基盤づくりに努める。
- (7) 生徒の発達の段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育、進路指導を推進し、社会的・職業的な自立に向け必要となる能力・態度の育成に努める。

【キャリア教育の視点】

- (8) 保護者や関係機関等との連携を十分に図り、生徒の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や長期的な視点に立った特別支援教育の充実を努める。
- (9) 陽南地区の児童生徒の豊かな心や確かな学力の育成を目指し、義務教育 9 年間を見通した系統的な指導や教職員の交流を通して、小中一貫教育の充実を努める。
- (10) よき伝統や教職員の創意工夫を生かしたり、地域の教育資源を積極的に活用したりする教育活動を推進するなど、特色ある学校づくりに努める。

- (11) 積極的な情報提供など家庭・地域社会との連携を一層深めるとともに、地域協議会の活動の活性化を通して地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。
- (12) 教職員が、生徒と十分かつ適切に向き合う時間を確保するとともに、ワークライフバランスの実現のため、業務の効率化や勤務時間の適正化を図る。

【教職員の働き方に関する視点】

〔陽南地域学校園教育ビジョン〕

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの主体的な活動を通して～

テーマ：生きる力を育むための学力保障と学校生活適応能力の育成

～主体的・対話的で深い学びを通して～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

- ① 関連する法令と学習指導要領の示すところに従って編成する。
- ② 校長の学校経営方針のもと、教育目標の実現を図るために編成する。
- ③ 新しい時代に生きる生徒に必要な資質・能力の三つの柱である「学びに向かう力，人間性など」「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力など」のバランスのとれた育成を通して、「生きる力」の醸成を目指して編成する。
- ④ 各教科・領域の指導に当たっては，令和3年度から全面実施された学習指導要領を踏まえ，生徒の実態に応じ，「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め，一人一人の生徒が分かる授業の展開に努める。
- ⑤ 生徒の人間として調和のとれた育成を目指し，心身の発達段階の特性を考慮して編成する。
- ⑥ 地域や学校の実態を考慮し，「特色ある学校づくり」の基盤となるように編成する。
- ⑦ 全教職員の参画と教師同士の連携・協力によって編成する。

(2) 留意点

- ・ 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で再構築する。(全教科・領域を通じた話し合い活動の充実，主体的に学びに向かう集団作り，言語環境の整備等)
- ・ 各教科，特別活動，総合的な学習の時間，国際理解教育，人権教育，環境教育等においてSDGsとのカリキュラムマネジメントを図り，ESD(持続可能な開発のための教育)の推進を行う。【教科横断的な視点】
- ・ 小学校及び中学校が一貫した教育課程の下で，地域住民等と連携及び協力をしながら教育活動を行えるように努める。
- ・ 保護者や地域の声を，学校評価等を通して把握し教育課程の改善に生かす。
- ・ 地域の教育力を活用するなど，必要な人的又は物的な体制を確保する。
- ・ 教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることに努める。

5 今年度の重点目標 (短期的視点)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ① 学力向上
 - ・ 基礎基本の確実な習得
 - ・ 授業改善を目指したGIGAスクール構想の推進
 - ・ ソサエティ5.0を生き抜く力を育てる
- ② 見通しをもつ力(=学びに向かう力)の育成 ～学校全体の教育活動を通して
 - ・ 特に学習指導・生徒指導・キャリア教育・生徒会活動との関連を図る
- ③ SDGsカリキュラムマネジメント ～持続可能な社会の担い手を育てる
 - ・ 各教科・領域・生徒会との関連
 - ・ 地域未来会議 地域と生徒会の関連を図る(地域が目指す生徒像の策定)
 - ・ SDGsプロジェクトチームの支援のもと，生徒会活動の活性化を図る
 - ・ 国際理解教育の推進
- ④ 誰一人取り残さないウェルビーイングな学校
 - ・ ウェルビーイングの深化(個から場へ)
 - ・ 教育相談，不登校対策の充実

- ・ 多様性を認める
- ・ 地域未来塾
- ・ チーム学校 業務改善 働きやすい職場

⑤ その他

- 地域ボランティアへの参加など地域との連携を図った特色ある学校づくりを推進する。
- 小中学校間で課題の共有を図り、学校園全体で課題解決に取り組む小中一貫教育を推進する。
- ・ ホームページ、各種たよりの発行やP T A・地域協議会への情報提供などを通して、家庭や地域との連携を一層深める。
- ・ 部活動の適正な実施など業務の適正化を図るとともに、「働き方改革推進チーム（仮称）」を組織し、ボトムアップによる働き方改革を推進する。
- ・ 業務改善を進め、生徒と向き合う時間の確保を目指す。

【学習指導】

- ・ 「学業指導」の理念や「宇都宮モデル」を踏まえ、「はっきり・じっくり・すっきり」を意識した授業を展開・改善し、生徒の学ぶ意欲の育成や基礎・基本の確実な習得に努めるとともに、一人一授業の公開を基本とした研修に取り組み、授業力の向上を図る。
- ・ 魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、課外学習を実施することにより、学力の基礎・基本の定着を図る。

【児童生徒指導】

- ・ 不登校対策プロジェクトチームの運用を明確かつ活性化させるとともに、家庭、その他関係機関と十分に連携を図った教育相談体制を構築し、不登校生徒の減少に努める。
- ・ いじめ防止にむけた効果的な取組を意図的・計画的に実践し、いじめの起こりにくい環境を構築するとともに、積極的に取組の公表を行う。また、いじめ調査などの充実を図り、いじめの早期発見・早期対応が機能する指導体制の充実を図る。
- ・ 問題行動等の発生に対して、学校全体で情報の共有を図り、組織的に対応する体制を一層強化する。（報告・連絡・相談の徹底）
- 外部講師等を招聘するなどして、スマートフォンなど情報機器の適切な使用について指導の充実を図り、ネットトラブル等の未然防止に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・ 交通ルールやマナーの重要性を理解させる指導に力を入れ、自他の生命の尊重に努める生徒を育成する。
- ・ 体力向上や心身の健康の保持増進に心がけ、自ら安全に活動できる生徒の育成に努める。
- ・ 食に関する指導の一層の充実を図るとともに、生徒の健康・安全管理の徹底を図る。

6 自己評価（評価項目のAは市共通，Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は，文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には，A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	<p>A1 生徒は，他者と協力したり，必要な情報を集めたりして考えるなど，主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①「宇都宮モデル」などを踏まえ，全教科で「学び合う活動」を授業に取り入れ，生徒のコミュニケーション能力(発表力・発言力)の向上を図る。</p> <p>②生徒が学び合える活動等を工夫し，教師がコーディネートすることにより，生徒のよさや努力したことを認め，励ますことによって，生徒の学習意欲を喚起する。特に発表時における言語活動を意識した助言を大切にする。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.0%で，目標を 5.0 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 「学びあう活動」(グループ活動や発表など)の目的や方法をより明確にすることで「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習活動や書くことを中心とした言語活動の充実に努める</p>
	<p>A2 生徒は，思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①特別活動や道徳教育の充実を図り，学校生活全般を通して，相手の立場に立って物事を考えたり，相手の気持ちに気づかせたりする機会を大切にした指導をする。</p> <p>②教師自らが見本となり，思いやりを持った言動や指導を行う。</p>	B	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 86.3%で，目標を 3.7 ポイント下回った。昨年度と比較しても 9.0 ポイント低下した。</p> <p>【次年度の方針】 ・学級活動や道徳教育の充実を図り，学校生活全般を通して，相手の立場に立って物事を考えたり，自分の言動で相手がどんな気持ちになるかを考えたりできるように指導・支援し，人に優しく接したり，困っている人に手を差し伸べたりできる豊かな心を育む。また，良い言動が見られた時には大いに称賛して，個の良さを伸ばしながら集団へとつなげる。</p>

<p>A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①キャリアパスポートを活用し、諸活動への取組や内容の振り返りを行い、PDCAサイクルを意識させながら、目標の見直しや改善・向上につなげさせる。</p> <p>②キャリア教育との関連を図り、今の学びと将来のつながりを意識付けながら、学級活動での進路学習や教科学習を進める。</p> <p>③1年生の「働く人に学ぶ会」と、1年生を訪問する2年生の社会体験学習発表会の実施時期を連動させ、学年間の縦のつながりをもたせる。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は85.9%で、目標を0.9ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・キャリアパスポートや授業での自己評価のための振り返りシート等を活用し、目標の見直しや改善・向上につなげさせる。</p> <p>・キャリア教育で伸ばしたい4つの基礎的・汎用的能力と今の学びとの関連を図り、将来を見据えた取組になるように意識付けを図る。</p> <p>・進路に関する学級活動を、社会体験学習や「働く人に学ぶ」に関連させながら、学年で統一して計画的に行う。</p>
<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」各保健講座を実施するとともに、他の教育活動との関連を明確にして指導する。</p> <p>②地域学校園児童・生徒指導部会で、交通ルール指導に関する共通理解を深め、小学校と連携しながら指導に当たる。</p> <p>③登下校指導を実施し、交通ルールの順守を繰り返し指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は92.6%で、目標を2.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・登下校指導や安全教育の充実を図り、生徒の規範意識の向上に努める。また、保健講座等の実施により、生徒の健康への意識向上を図る。</p>
<p>A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学年・学級・専門委員会等において目標を決めたり、学校行事の目標を設定したりすることにより、活動の目標を明確にし、生徒同士が共同的に目標に向かっていく態度を育成する。</p> <p>② 行事や委員会活動の振り返りを通して、自己の良さや成長を実感できるようにする。また、他の生徒の良いところを互いに伝え合うなど、協力して生活できる雰囲気を作る。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は89.7%で、目標を9.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学級活動や生徒会活動の中で、生徒個人の意見や考えが取り入れられたり、認められたりするような場면을意図的に設定する。</p> <p>・行事や委員会活動の振り返りを通して、自己の良さや成長を実感できるようにする。また、他の生徒の良いところを互いに伝え合うなど、協力して生活できる雰囲気を作る。</p>

<p>A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①英語科の授業で、生徒同士及び生徒とALTのコミュニケーション活動を取り入れる。</p> <p>②スピーキングテストの実施内容の各学年内で深め、言語使用の適切さとコミュニケーションの達成ができるように働きかける。</p> <p>③国際社会で活躍できる生徒の育成を目指し、「生きた英語」に触れる機会をさらに増やすとともに、異文化への理解とコミュニケーションの大切さを伝え、豊かな表現力の育成に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答は72.1%で、目標を7.9ポイント下回った。一方で、教職員の肯定的回答は96.1%で、目標を6.1ポイント上回り、昨年度と比べて5.4ポイント上がった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際社会で活躍できる生徒の育成を目指し、「生きた英語」に触れる機会をさらに増やすとともに、異文化への理解とコミュニケーションの大切さを伝え、豊かな表現力の育成に努める。
<p>A 7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間での宇都宮学や働く人に学ぶ会、社会体験学習、地域連携のボランティア活動等を通して、地域との関わりの大切さを学ぶとともに、進んで社会貢献しようとする生徒を育てる。</p> <p>②働く人に学ぶ会や社会体験学習を通して、地域に生きる自分を自覚し将来への見通しをもつよう働きかけるようにする。</p> <p>③陽南地区の各種ボランティアや行事等に参加し、地域のよさを実感できるようにする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答は85.0%で、目標を5.0ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間での宇都宮学や働く人に学ぶ会、社会体験学習、地域連携のボランティア活動等を通して、地域との関わりの大切さを学ぶとともに、進んで社会貢献しようとする生徒を育てる。 宇都宮学等で学んだことや、ボランティア活動の様子をHPなどで発信し、保護者や地域の方に知ってもらう。
<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①タブレットPCを活用した授業での効果的な利用の充実を図るとともに、思考力を高め、表現力の育成を目指した指導法の研究に努める。</p> <p>②学校図書館の授業での活用を推進し、よりよい言語活動や豊かな心の育成に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の肯定的回答は72.1%で、目標を7.9ポイント下回ったが、昨年度と比べて3.6ポイント上がった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットPCを活用した授業での効果的な利用の充実を図るとともに、思考力を高め、表現力の育成を目指した指導法の研究に努める。 職員研修などで、授業におけるタブレットPCの具体的な使い方を教員が学び、授業で実践していく。

<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①総合的な学習の時間でSDGsに関する知識を得て、関心を高め、国際的視野から自分たちにできること活動に関心を高める。</p> <p>②地域の諸団体と連携を行いながら、SDGsの活動に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の肯定的回答は75.4%で、目標を4.6ポイント下回った。また、昨年度と比べて1.1ポイント下がった。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間を通じてSDGsに関する知識を深め、国際的な視野から自分たちにできる活動を考え、実践への意欲を高める。 ・専門委員会の活動の中に、SDGsに関連する内容があることに気付かせ、実感を持って生徒会活動に参加させる。
<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①特別な支援を必要とする生徒の実態把握や支援のあり方について、教員一人一人の理解を深める。学年や職員間で共通理解に努め、指導に当たる。</p> <p>②生徒指導係会や教育相談係会で、生徒の実態や状況について情報の共有化を図るとともに、今後の対応について話し合う。</p> <p>③不登校対策やQ-U検査などについて、集団不適用や不登校生徒の不安解消を図るとともに、適切な指導法について研修を深める</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は96.1%で、目標を11.1ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団不適用や不登校生徒の解消を図るとともに、授業で困り感を持っている生徒やつまずきを感じている生徒への支援や適切な指導法について研修を深める。支援が必要な生徒には、担任・学年・学校と全体で取り組む。
<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①学校生活の中で、相手の気持ちを考えた言葉遣いや態度を取るよう指導することを通して、人権感覚を高める。</p> <p>②いじめのアンケート（年間4回）や教育相談の結果を踏まえ、生徒や保護者との信頼関係を深めながら未然防止や支援の充実を図り、全教職員で共通理解を行う。</p> <p>③本校の「いじめ防止対策基本方針」をホームページに掲載し、各学年の保護者会を通して、保護者に周知し、家庭と連携して対策に取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は94.1%で、目標を14.1ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケート実施を継続するとともに、早期発見・早期解決に努める。また、生徒や保護者との信頼関係を深めながら未然防止や支援の充実を図る。

	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①スタンダードダイアリーの確認を通して、生徒の思いや訴えを受け止め、適切な指導や相談を行う。</p> <p>②教育相談(年2回)や普段の日常会話での教育相談の機会を通して、生徒理解に努める。</p> <p>③生徒の情報を多くの教職員で共有しながら、校内資源の情報提供を行い適切な支援の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は昨年同様100%で、目標を20.0ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談(年2回)を通して、生徒理解に努める。また、生徒の情報を多くの教職員で共有しながら、適切な支援の充実を図る。 ・校内資源を有効活用できるように、情報提供や情報共有を行い共通理解を図る。
目 指 す 学 校 の 姿	<p>A13 学校は一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学級活動や学校行事等において、生徒が目的意識をもって協力しながら活動し、達成感や自己肯定感を得られるよう活動を支援する。</p> <p>②行事や委員会活動の振り返りを通して、自己の良さや成長を実感できるようにする。また、他者の良いところを相互に伝え合うなど、自己肯定感を高められるような振り返りの工夫をする。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は昨年同様100%で、目標を20.0ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級目標や、学校行事の際の目標など、生徒個人の意見や考えを取り入れて設定し、目的意識をもって協力できる雰囲気を作る。 ・行事や委員会活動の振り返りを通して、自己の良さや成長を実感できるようにする。また、他の生徒の良いところを互いに伝え合うなど、自己肯定感を高められる振り返りの工夫をする。 ・HPを活用するなどし、地域や保護者に学校の様子を知ってもらう工夫をする。
	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①「分かる授業」展開のための「一人一授業」を行い、参観レポートを作成するなど、相互研修を充実させ、個々の授業力を向上させる。</p> <p>②家庭学習の充実に向け、ICTの活用や助言、指導を的確に行うための研鑽し合う機会を作る。</p> <p>③「家庭学習の手引き」や「家庭学習確認票」の利用を通して、生徒の学習への意識向上を図るとともに、保護者への啓発に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の肯定的回答は95.5%で、目標を10.5ポイント上回った。 <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習の手引き」や「家庭学習確認票」の利用を通して、生徒の学習への意識向上を図るとともに、保護者への啓発に努める。

<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①各主任や主事が計画的に連携・協働するための小会議（校務分掌部会、教科部会など）等を設定するとともに、校務運営委員会や学年主任会の充実を図る。また、学年会議を通して学年内での情報交換・共通理解の充実を図る。</p> <p>②全職員に対して、希望研修等についての周知を図ったり、ITC支援員、SC等の専門的な知識を持つ教職員との連携を深め、生徒支援の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は92.2%で、目標を12.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校の諸課題に対して組織全体で向き合うとともに、会議の場を活性化して情報を密に共有し、一丸となって取り組む「チーム力」を高めていく。</p>
<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①これまでの改善策を踏まえ、従来の業務内容をもう一度見直し、業務内容の精選を行うなどして、勤務の改善を図る。</p> <p>②部活動の活動頻度、活動時間の意義の再確認、その他の改善を図り、生徒、教職員に負担の少ない運営を図る。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は80.4%で、目標を4.6ポイント下回ったが、昨年度と比べて6.0ポイント上がった。</p> <p>【次年度の方針】 ・これまでの改善策を踏まえ、従来の業務内容をもう一度見直し、業務内容の精選を行うなどしてさらに改善を進める必要がある。</p>
<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取り組みを行っている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①小中一貫教育の効果を共有し、取組の充実を図る。各部会の活性化をすすめ、乗入れ授業や各種交流を通して、地域学校園研究目標の達成に努める。</p> <p>②小・中間で図書館、給食、保健室の情報を交流し、指導の充実を図る。</p> <p>③各部会や乗入れ授業を計画的に実施し、各校間の交流の活性化を図る。また、「ひまわりネット」など児童会、生徒会の交流活動を計画、実施できるように指導する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は90.2%で、目標を5.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・小中一貫教育推進主任を中心に、各部会の目標を明確化することで、学校間の情報共有や交流を活性化し、分科会活動の充実に努める。</p> <p>・現在行っている取組の周知の仕方を工夫する。</p>
<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 →保護者の肯定的回答 85%以上 →地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①PTA、生徒、教職員に対して、地域行事等へのボランティア活動の参加について、積極的な啓発を行う。また、校内での体験発表や報告の工夫に努め、生徒の達成感等の向上を図る。</p> <p>②PTAの関わる行事について、PTA執行部、学校、地域の連携を図りながら、計画的に企画、運営を行う。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は86.2%で、目標を1.2ポイント上回った。地域の肯定的回答は90.9%で、目標を5.9ポイント上回り、昨年度と比べても13.1ポイント上がった。</p> <p>【次年度の方針】 ・ボランティア活動への参加を継続・推進させるとともに、累積シートに振り返りを記入させ、生徒の達成感等の向上を図る。</p>

	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上 →保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①安全点検を実施し、危険個所の把握や適切で迅速な対応を検討し、安全な教育環境の維持に努める。</p> <p>②教育活動全般について、学校環境の安心・安全確保に努め、PTA等と連携しながら、環境整備を図る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は90.2%で、目標を10.2ポイント上回り、昨年度と比べて6.5ポイント上がった。保護者の肯定的回答は84.9%で、目標を0.1ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・学校環境の安心・安全確保に努める。また、学校業務・機動班・PTA等と連携しながら、環境整備を図る。</p>
	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができてる。</p> <p>【数値指標】 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 教員は1人1台端末の使用に関して研鑽に努め、校内研修などの機会を活用して共通理解を図るなどし、授業で効果的に活用できるようにする。</p> <p>② ICT機器（Chrome Book）を積極的に活用し、充実した学習活動を保障するために校内環境整備に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は88.2%で、目標を8.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・データの共有化を図ることで、誰でもICT機器が利用できるよう、校内環境整備の充実に努める。 ・学習のためにICT機器を使用することを念頭におき、授業で使用する際には使用の約束を確認する必要がある。</p>
学校の特色・課題等	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①普通の学校生活や授業で正しいあいさつができるよう、教師が進んで範を示す。</p> <p>②生徒会のあいさつ運動を推進させ、日頃から進んであいさつができる雰囲気を、学校全体で作る。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.5%で、目標を5.5ポイント上回った。教職員の肯定的回答は88.2%で、目標を8.2ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒会活動の継続的な取組を充実させるとともに、実践的な態度の育成に努める。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①学業指導の徹底を図るため、学級委員長や生活委員会が中心となって呼びかけを行い、生徒の自発的・自治的な活動の充実に努める。</p> <p>②学級活動や生徒会活動などの集団活動を通して規範意識の向上に努める。</p> <p>③生徒心得・校則の見直しについて、中央委員会で協議し、随時変更していく。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は95.4%で、目標を5.4ポイント上回った。一方、教職員の肯定的回答は72.5%で、目標を17.5ポイント下回り、昨年度と比べ15.9ポイント下がった。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒の自発的・自治的な活動の充実に努めるとともに、学級活動や生徒会活動などの集団活動を通して規範意識の向上に努める。</p>

<p>B 3 生徒は、友達や周囲の人々とお互いにコミュニケーションをとることで、生活をよりよくしようとしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①生徒が自分の思いや考えを自由に言える雰囲気づくりを行い、思考力・判断力・表現力を育む。 ②グループ学習の機会を増やし、「意見を出し合い、共に考え合える」場を設定することでコミュニケーション能力を高める。 ③時や場所に応じた、言葉遣いをするよう、日々指導していく。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.7%で、目標を 4.7 ポイント上回った。教職員の肯定的回答は 90.2%で、目標を 0.2 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒の思考力・判断力・表現力の向上を図るため、授業中のグループ学習や話し合い活動の場面を増やす。また、自己を振り返り、時や場所に応じた言葉遣いについて、日々声掛けを実施する。</p>
<p>B 4 生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている。</p> <p>【数値指標】 →生徒の肯定的回答 90%以上 →教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①「家庭学習の手引き」や「家庭学習の記録」を活用し、宿題の出し方を工夫するとともに、1人1台端末を活用しながら、家庭学習の習慣を段階的に身に付けさせ、家庭学習の充実を図る。 ②自主学習の大切さや考え方の助言をし、指導を継続することで、生徒の「主体的に」「学びに向かう力」の育成に向けた指導法を実施、工夫する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 82.4%で、目標を 7.6 ポイント下回った。教職員の肯定的回答は 70.6%で、目標を 19.4 ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・AIドリルの積極的活用をはかる。 ・AIドリルを使った学習の時間を設ける。(朝の学習)</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・字 22 項目 (A1～A20, B1・2) において、調査した全対象者 (生徒・教職員・保護者・地域住民) から回答を得た全 63 項目のうち、肯定的回答の割合が 80%を上回った項目は 49 項目 (全体の 77.8%) であった。数値目標については、31 ある目標のうち 22 が数値目標を越えており、概ね良好な結果となっている。

〔経年変化による評価から〕

・A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。」では、保護者は 3.8%、地域住民は昨年度から 12.5%上昇し 100%になったことから、今年度の取組において一定の評価を得ることができた。

〔数値目標を達成できなかった項目について〕

- ・生徒の肯定的回答率が目標を下回った項目は、A6, A8, A9, B4 の 5 つである。
- ・教職員の肯定的回答率が目標を下回った項目は、A2, A16, B2, B4 の 4 つである。
- ・A2「生徒は、思いやりの心をもっている」

教職員の肯定的回答は 86.3%で、目標を 3.7 ポイント下回った。昨年度と比較しても 9.0 ポイント低下しており、保護者・地域住民・生徒の値も昨年度より下がった。特に教職員や外部評価の低下は、日常的なマナーや言葉遣いにおける課題意識の表れであると思われる。全ての教育活動を通じ、「相手の立場を想像する力」を育んだり、良い言動を大いに称賛し、個の成長を集団の質的向上につなげたりすることが必要である。

- ・A6「生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている」

教職員の肯定的回答率は昨年より 5.4 ポイント上がって 96.1%と高い数値を示している。一方で、生徒の肯定的回答率は昨年度とほぼ変わらず 72.1%で、目標値を 7.9 ポイント下回っている。国際理解教育の面

から生徒の育成をはかり、英語によるコミュニケーションの大切さを理解させるとともに、豊かな表現力を育成できるよう、英語の学習指導を中心として重点的に取り組み、改善を図りたい。

・A8「生徒はデジタル機器や図書等を学習に活用している」

生徒の肯定的回答は72.1%で、市平均より12.4ポイント低い値である。目標を7.9ポイント下回ったが、昨年度と比べて3.6ポイント上がった。特にタブレットPCを活用する場面が多く、多くの教科で見られることが大きな要因であると考えられる。引き続きタブレット端末を有効活用できる授業の展開と教材開発に努めたい。また、図書の活用場面を増やし、よりよい言語活動や豊かな心の育成を進めていくことが必要である。

・A9「生徒は、「持続可能な社会」について、関心を持っている」

昨年度と比べ1.0ポイント下がり、市の平均より9.7ポイント低い値である。各専門委員会の活動の中に、SDGsに関連する内容があるので、実感をもって活動に参加し、活動への関心を高めるための工夫が必要である。

・A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」

教職員の肯定的回答率は80.4%であり、市全体の肯定的回答率よりも8.2ポイント下回っている。しかし、昨年度よりも6.0ポイント上回ってきているので、これまでのガイドラインの改善策を踏まえ、従来の業務内容をもう一度見直し、業務内容の精選を行うなどしてさらに改善を進め、これまでの取組を継続していく。

・B2「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」

生徒の肯定的回答は95.4%で目標値を達成しているが、教職員の肯定的回答は72.5%で、教職員との間に15.9ポイントの大きな乖離がある。これは、生徒が「規則の遵守」を達成基準としているのに対し、教職員は「マナーの質や社会性」に課題を感じているためと推察される。学校生活の様々な場面で継続して規範意識の向上を図ることができるよう、地道に努力を続けていく必要がある。

・B4「生徒は、宿題や自主学習、読書など家庭学習をしている」

生徒・教職員ともに前年度より肯定的回答は若干上がったが、目標値がそれぞれ生徒が7.6ポイント、教職員が19.4ポイント下回った。生徒の自己評価(82.4%)と教職員の評価(70.6%)には依然として乖離が見られる。これは、生徒が「形式的な提出」を重視する傾向にあるのに対し、教職員は「学習の質」を重視していることが要因と推察される。自主学習の好事例を共有するなどして「質の高い学び」のイメージを具体的に生徒に提示するなどの工夫が必要である。

7 学校関係者評価

- ・全体的な評価は肯定的な回答が多く、概ね良好である。
- ・オープンスクールに参加したが、生徒の話し方や態度がとてもよかった。
- ・ボランティア委員の活動では、防災グッズの手作りという視点に立った活動でよかった。今後の活動が楽しみである。
- ・宇都宮市民としての誇りを生徒たちにはもってほしい。
- ・宇都宮市文化会館での文化祭はこれからも続けてほしい。そのステージは素晴らしいものなので、その体験を生徒に味わわせてほしい。
- ・地域協議会主体で行っていたイベントがなくなってしまい、地域と生徒の結びつきができる場がなくなった。地域と学校が一体となって活動できる行事があると良いのではないか。
- ・地域協議会と学校、そして地域住民の間で、より密接な連携や情報共有の必要性があるのではないか。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

(1) ○規範意識を高める指導の充実

規範意識を高め、望ましい自己決定ができる生徒の育成を目指し、遵法精神の涵養に努める。体験的な活動の中で、発達段階ごとに必要なルール等の知識・技能の理解・習得を促す。

(2) 「誰一人取り残さないウェルビーイングな学校」の実現に向けた取組の一層の深化

教育相談や不登校対策の充実を図るとともに、多様性を認め合う風土を育む。また、地域未来塾の充実により放課後の学習支援を強化し、地域と連携して生徒を支える体制を整える。さらに、チーム学校として業務改善を進め、働きやすい職場環境を整備し、教職員・生徒双方のウェルビーイング向上を目

指す。

(3) 地域との連携強化と情報共有

地域協議会との連携をより密にし、定期的な情報交換や合同会議を開催する。また、地域協議会と協力したうえで、地域に生徒が貢献できる活動（ボランティア活動など）へ積極的に参加する。

(4) 生徒会活動の地域への発信

生徒会が地域に向けた広報誌等を作成することにより、活動内容や成果を定期的に発信する。また、地域住民を交えた地域協議会等にて地域の問題に対して協働的に取り組むことを通じ、地域へその活動を発信し、活動への理解を深める。